

多様な働き方

Vol. 3
2019年3月発行

～すべての男女が自分らしく生きることのできるまちをめざして～

生活スタイルが変わっても、いきいきと活躍して欲しい

株式会社メガネマーケット 代表取締役 久賀きよ江さん



若手社員が多くなり、結婚や出産、育児など、生活スタイルが大きく変化しても、引き続きいきいきと活躍できるようにと、社内制度の改革に取り組んできました。

例えば、パート社員であれば、お子様が小さいうちは平日中心にし、子育てが落ち着いて「もっと仕事に取り組みたい」となった場合には、契約社員としてステップアップするなど、社員一人ひとりの生活スタイルを配慮しながら、その方が輝いて働けるような環境作りを進めています。

今では、妊娠・出産を経て現場復帰した後、ワークシェアリングを活用しながら店長へと昇進し活躍する女性社員もおり、多様な働き方の実践が、キャリアアップへのサポート体制にも活かせるようになっていきます。



多様な働き方は当たり前

株式会社ホウユウ 代表取締役 太田久年さん

男性が多い建設業界ですが、当社は半数近くが女性。大切な社員だから、多様な働き方を認めるのは当たり前だと思っています。この度、ステップアップして資格も取得した、自慢の社員の声を紹介します。

前社で子育てとの両立が難しかったことから、一度は諦めた設計の仕事でしたが、ホウユウでは「週2日出勤と在宅ワークでOK」と言ってくれ、5年前にパート勤務で再スタートすることができました。

子育てが少し落ち着いたので、昨年4月からは正社員に勤務を変えてもらい、7月には兼ねてから挑戦したかった技術士試験を受けました。

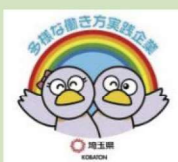
女性の働ける状況に応じて、会社側が多様に対応してくれる環境に、感謝しております。



女性社員が資格取得！

埼玉県「多様な働き方実践企業」認定制度

「多様な働き方実践企業」認定制度は、仕事と子育て等の両立を支援するため、短時間勤務やフレックスタイムなど、多様な働き方を実践している企業等を、県が認定する制度です。市では、市内企業がこの認定制度により多く認定されるよう取り組んでおり、2021年度までに、34社が認定されることを目標としています。



～ 性の多様性について考える ～

好きな人いるの？



心の性（性自認）も様々

心の性（性自認）とは、自分の性をどのように認識しているかということ。自分の性を、決められない・分からないと感じる人や、男性と女性の間だと感じる人もいます。



また、身体上の性と心の性が一致せず、自身の身体に違和感を抱く人もいます。

性の多様性に関する理解がないと、傷ついてしまう人がいます。
どのような性の人も自分らしく生きられるよう、性は多様であることを受け止め、互いに認め合いましょう。

恋愛対象は異性…とは限りません。

同性が好き、男性も女性もどちらも好き、など、性的指向（関心の向く性）は様々です。男性にも女性にも恋愛感情を抱かない人もいます。



男女共同参画は、全ての人に、そして、仕事、家庭、地域生活などのあらゆる場面に関わっています。吉川市男女共同参画啓発紙では、すべての男女が自分らしく生きることのできるまちをめざし、様々なテーマを取り上げて情報発信していきます。今回のテーマは「多様な働き方」です。



女性しごと応援フェア
ハローワーク越谷マザーズコーナーによる
就職相談ブースの様子
(2018年12月22日土)、市民交流センターおあしす多目的ホール

特集 | 女性に、多様な働き方を発信「女性しごと応援フェア」

2018年度、市では「多様な働き方」をテーマに様々な取組を行ってきました。中でも、12月に開催したイベント「女性しごと応援フェア」は、盛りだくさんの内容で、好評をいただきました。当日、ご来場いただけなかった方のためにも、その内容を紙面にてご報告させていただきます。

女性の就労を取り巻く状況

共働き家庭が年々増えていますが、それでも全国的には人手不足の傾向にあります。

2017年には、働きたい女性のうち約10%にあたる262万人が働いていない状況となっており、この女性たちが働くことができれば、人手不足の解消にもつながります。

働きたい女性を応援したい！

特に、家庭を持つ女性には時間的な制約があり、働きたい女性がそれぞれの生活スタイルに合った仕事に就くには、仕事の「種類」だけでなく、「働き方」の多様性が必要です。

イベント「女性しごと応援フェア」では、女性

に「自分らしい働き方」を探す手掛かりとしていただけるよう、女性の多様な働き方について様々な形で情報発信しました。女性起業家の出展、地域企業の求人ブース、就職や起業の相談ブース、イキイキと働く女性による音楽ライブ、「女性と多様な働き方」をテーマとしたシンポジウム、キッズコーナーも備えるなど、盛りだくさんの内容で、約300人のお客様にご来場いただきました。

当イベントは、*市民シンクタンク提言事業であり、提言趣旨を踏まえ、子育て支援や起業支援などに関係する市民や市民団体の方々との協働により企画・開催しました。

次ページ以降では、シンポジウムと出展者についてご報告いたします。

*市民シンクタンク…市民研究員が、市民の目線で地域の課題を提起し、調査・分析を経て課題解決策を市に提言する仕組み



発行 吉川市 | 2019年3月発行

お問合せ 吉川市 市民参加推進課 男女共同参画・文化交流担当
〒342-8501 吉川市きよみ野 1-1 電話:048-982-9685 FAX:048-981-5392
メール:shiminsanka2@city.yoshikawa.saitama.jp



「多様な働き方」で、産業発展への一步を

【シンポジウム進行】吉川市長 中原恵人

市では、2018年3月に幸福実感向上を目指した「産業振興基本条例」を策定しましたが、本日この会場には、まさに、産業振興基本条例の理念が全て含まれており、女性をキーワードとしつつ、高齢者や障がい者の活躍も含めた「多様な働き方」の可能性が示されていると感じています。

産業発展への一步ともなる「女性と多様な働き方」について、有識者の尾崎えり子さんと共に、ご意見をお聞きします。

郊外型オフィスなら、働きながら地域とつながれる

株式会社 新閃力 代表取締役社長 尾崎えり子さん

働くママにとって、通勤時間が長いと、その分、家庭や地域コミュニティとも離れてしまいます。そこで私は、自宅近くで働ける、郊外型オフィス「Trist」を作りました。

テレワークは、隣に上司や同僚がいる環境ではないので、仕事も情報も自分で主体的に取りに行き、発信をしていかなければなりません。テレワークで活躍できる主体的な人材を育てることで、都内の人材不足企業に入居してもらい、地域での雇用を増やすことに繋がっています。

ママたちの持つ「生活者の視点」は、強みとして仕事で活かせる力

【地域企業代表】株式会社 メガネマーケット 代表取締役 久賀きよ江さん

子育てをしているママたちは、人に寄りそう視点が豊かで、地域のことを良く知っているなど、仕事の場で「生活者の視点」で物事を見ることができることが強みです。ママのスキルを活かしたいという当社の風土に、社員はやりがいを感じてくれているのではないのでしょうか。

また、仕事は、困難な事も含め様々な事が経験でき、人格も磨かれ人生を生き抜く力を与えてくれます。ですから、自分自身のためにも仕事をして欲しい、そう思っています。



男性の自分には分からないから、制度づくりは女性に任せる

【地域企業代表】株式会社 サティス製薬 代表取締役 山崎智士さん

女性を美しくする製品を作る仕事から、女性社員が多いです。女性社員に長く働いてもらうための制度はどのようなものか、子育て経験があるとはいえ男性の自分には分からないと考え、制度は女性に考えてもらうことにしています。女性の美しさは同じものがなく、みな違う。多様な美しさを提供するために、社員の「自分らしさ」を尊重し、社員一人ひとりの能力を解き放っていききたい、と考えています。



起業には責任と覚悟が必要、でも、子育てでも仕事もあきらめたくない

【女性起業家代表】株式会社 comgran 代表取締役 妹尾百合子さん

出産・育休を経た後、仕事復帰できない環境となり、社会との断絶を感じる一方で、仕事復帰すれば子育てはおろそかになり、母親失格になる、と焦りも感じました。

そこで私は、リモートワークという働き方に可能性を感じ、エンジニアとして独立し、子育ての空き時間を利用して自分の裁量で仕事をする決心をしました。大人がチャレンジする姿を子どもたちに見せていきたいという想いもありました。

起業は難しくはありませんが、責任と覚悟が必要。しかし、「自分軸で行動すること」は「人生を豊かにすること」だと思っています。



家事や育児はブランクどころかスキルを積む、女性も社会も共にその意識を

【市民団体代表】NPO 法人よしかわ子育てネットワーク 代表 中島真由美さん

「子どもを産んで家庭に入れば幸せが待っている」と漠然と思っていましたが、理想と現実のギャップは激しく「社会から取り残された焦燥感でいっぱいになった」という経験の元、家事や育児をしながらも「自分らしく生きる」ことを目的に、活動を続けて15年。

私の周りの女性たちは、「同時にいくつものタスクを使い分ける“マルチタスク能力の使い手”さんだらけ」でした。彼女たちと共に活動してきて感じるのは、家事育児は“ブランク”ではなく、家事育児で起こる目の前のトラブルや困難の中で、女性は、それを乗り越える力を持ち、さらにその力をスキルに変えていくことができる、ということ。そんな女性こそ、社会からも求められる素敵な人材です！

シンクタンク事業提言者



「女性しごと応援フェア」には、たくさんの市内女性起業家に出展していただきました。仕事の内容も、起業に至ったエピソードも多種多様。女性起業家の仕事への想い、その一部をお届けします。



カフェミカン

調理師の専門学校に入った頃から「いつか、カフェをやりたい」と思っていました。ある時、気づいちゃったんです。「思っているだけじゃ叶わない！人生後悔したくない！チャンスは自分で作らなきゃ！」って。

そして、3年前にカフェをオープン。「こうでなければいけない」と、気持ちも生活も無理をした時期もありましたが、最近やっと、家庭も大切にしながら、自分のペースで楽しくやっていけるようになりました。

この活動ができるのも家族の協力のおかげ。ふんわり営業のミカンですが、「地域に愛されるお店」を目指して、これからもがんばりますよ（^o^）



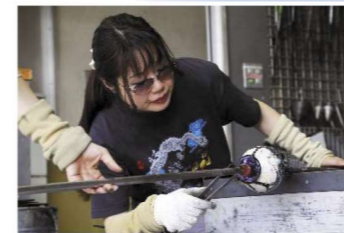
はなよい 花宵ガラス工房

20代の頃から趣味で通い始めたガラス教室、師に恵まれ、趣味の域を超えて、制作に力を注いでいました。

仕事は、長らく会社員、派遣社員などをやっていたのですが、「自分には合っていない」と、とうとう30代半ばで辞めました。

ガラス作家を仕事としてやっていくのは大変ですが、個展を開くなど活動を続け、2017年には個人のガラス工房をオープンすることができました。

まだまだ工房の方向性は定まっていますが、観光スポットになるなど地域のお役に立てればと思っています。お気軽に遊びにいらしてください。



ベビーマッサージ教室「ママの手」

私がベビーマッサージに出会ったのは、娘が生後2か月半頃、初めてのお出かけがベビーマッサージでした。娘のうっとりした表情に私も癒され、たくさんのママにベビーマッサージを知って欲しいと思い、資格取得を決めました。

ママの手は魔法の手、赤ちゃんにたくさん触れて愛情をたくさん伝えて欲しい♡そんな願いを込め、ベビーマッサージをお伝えしています。赤ちゃんの時期はあっという間、タイミングを逃さずスキンシップを楽しんでくださいね♪*

interview 「多様な働き方」～地域企業の取組～

今回、「女性しごと応援フェア」に求人ブースを出展していただいた企業は、「女性を採用したい」、「多様な働き方ができるよう取り組んでいる」といった地域企業です。出展いただいた地域企業の「働きやすい職場づくり」に向けた取組をご紹介します。

地域社会に貢献できる学園づくり

学校法人 ワタナベ学園



▶ 理事長 山崎美夫さん

働きやすい職場作りのため、様々な雇用形態や子育て中の教職員のための制度を整備しています。女性教職員ができるだけ長く働き続けられるよう、制度内容の改善に努めています。

また、地域貢献にも力を注いでおり、市の依頼により当園キャンパス内で開催している「子ども大学よしかわ」では、子どもたちに学ぶ楽しさを伝え、好評です。

地域と共に幸せを作る

社会福祉法人 彩凜会

▶ 理事長 星座正俊さん

社会福祉法人彩凜会では、45名中32名の女性が働いています。

仕事は、障がいのある方と関わることです。スタッフそれぞれに得意なことがあり、利用者さんもそれぞれ好きなことがあり、マッチングしたときは、すごい力が生まれます。その力が地域に広がることで、誰もが住みよい街になるはず。新しい出会いを、常に楽しみにしています。